

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ながさきゆうゆう牧場 ホーシーセンター				公表日	R7年 3月 31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		充分である 自傷や他害がある児童には職員が1対1で支援できるように配置している		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		文字や絵を使って、場所や物の位置など児童にわかりやすい工夫をしている		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		男子・女子それぞれ個室を設けており、本人が希望した時にはいつでも利用できるような環境を整えている		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	1	毎年、各自で目標設定と具体的な取り組みについて考える機会を設けている		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		年1回の保護者アンケート、従業員による自己評価、今年度より、その結果をふまえて、事業所の強みと弱みについて考える機会を設定		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	2		職員の意見を把握する機会は少ないため、機会自体を増やす必要がある また、誰もが意見できる職場の環境作りを行っていく	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	2		第三者委員会の存在を認知していない職員がいることが分かったため、今後職員の意識を高めていきたい	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		外部研修においては、必要と思われる研修は可能な限り受講している また、新人研修等の内部研修もその都度行うこととしている		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		HPIに公開		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		相談支援事業所からの情報をもとに、保護者やその家族と面談を行い、また、直接こどもの様子を見た上で作成している		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		毎月、ケース会議を行い、職員間で意見交換し支援内容について検討している		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8			「移行支援」及び「地域支援・地域連携」については今後見直していく必要があると思われる	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		職員間で意見を出し合いプログラム作成に当たっている		

× 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		メインである、乗馬プログラム、農育・食育プログラムとしては固定化しているが、こどもの成長・季節にあった活動を考えるようにしている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		こどもの特性や成長に合わせたプログラムを考えている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		朝のミーティングに参加出来ない職員に対しては、メールやラインで知らせている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		気付いた点は、その日のうちに伝達するが、翌日のミーティング等で前日の振り返りを行っている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		毎月、ケース会議を行い、職員間で意見交換し支援内容について検討している	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		日々の活動の内容についてもこどもが自身の考えで選択できるように、複数の活動を考えている	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		児童発達支援管理者か、保育所等訪問支援の担当職員など、その子の支援に多く関わっている職員が参画するようにしている	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		常に受け入れる体制は整えており、不登校児支援についても、学校や教育研究所と連携し、放課後等デイサービス利用時の学校出席の対応について相談している	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8			学校や保護者との共有はしているが、こちらで把握している時間と実際の送迎時間が異なる場合があり難しい部分である
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8		相談支援事業所からしっかり情報を受け取るようにしている	必要に応じて保育所等からの情報も提出依頼していく
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8			情報提供に関しては必要であれば提供しているが、基本的には相談支援事業所に任せている
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8		今年度は「地域障害児支援体制強化事業」に取り組んでおり、研修を受ける機会も多くあった	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	2		子ども園との繋がりは多くあったが、地域の就学児との関わりはなかった 今後、機会を作っていきたい
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7	1		同法人内の別事業所の職員が参加しており、情報共有は出来ているが、今後は当事業所からも参加していきたい
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8			電話やLINE等のオンラインでの伝達が多いため、対面での伝達場を多く設けていきたい
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	2	今年度は「ゆうゆうカフェ」を再開し、外部講師を招いての研修会を開催した	今後も、定期的に「ゆうゆうカフェ」を開催していきたい
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		初回面談で丁寧に行うよう努めている	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8			こどもの思いと、保護者の思いが一致しない場合（宿題等）の対応についてはその都度確認をするようにしている
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		相談があった際は、偏った助言にならないよう職員間で話し合い、必要に応じては関係機関との連携を図っている	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	1	「ゆうゆうカフェ」を再開し、交流の場を提供することが出来た	今後も「ゆうゆうカフェ」を定期的に継続していき、保護者同士の交流の場の提供していきたい
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		契約書にて苦情受付先等の記載を行っている	子ども、保護者に関わらず、事業所への苦情等については真摯に受け止めていく
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	1	月に1回お便りにて発信 HPも随時更新	個人情報取り扱いの観点から難しい一面もあるため慎重に扱っていく必要がある
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		都度、注意喚起を行い、特に新しい職員には具体的に説明を行うことにしている	今後も引き続き十分に留意していく
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	1	本年度、農作物の植え付けの活動に、地域の方に参加してもらう予定	恒例の行事にしていこう予定
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8			職員間では周知されているが家族への周知については不足していると思われるため今後改善していく
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8		初回面談で詳しく聞くようにしている	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		現在、医師の指示書が必要な食物アレルギーがある子どもの預かりはない	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			安全管理に係る研修や訓練に積極的に参加していく
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			家族への周知は改善の余地があるため、今後、定期的に知らせていきたい
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		ヒヤリハットはその都度報告書を作成・情報共有している	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		必ず年1回は虐待防止のための研修を行っている	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		現在、身体拘束が必要な児童はいない	いつでも対応できるような体制を整えておきたい	